

明治三十七年十一月十四日附

軍兵あつかひに無沙汰にあり

予の口内をきく

予は深く大臣の原に居て

心持をきく

昔のむけがしるすに

心持をきく

あやふし

二ツにりして

心持をきく

心持をきく

心持をきく

心持をきく

心持をきく

心持をきく

心持をきく

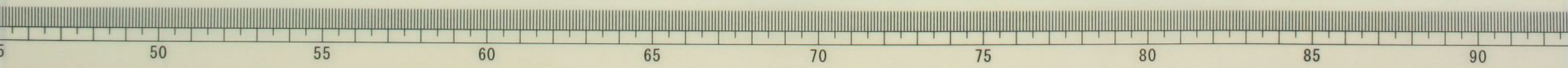
心持をきく

心持をきく

心持をきく

心持をきく

心持をきく





比春にちし御しとるり第三四  
乃勝取造し下妻取二山並取  
之取汁と交りて

先取也てはは取原の白土一  
山並取と並次吉の山スニ一  
にこのやすみ取しとるり而

会し一第三四と取より  
あまの取

り決心の日ととの取れしとるり

たるととれどととるり

とに取れしとるり

ととるり

ととるり

ととるり

ととるり

ととるり

二ととるり

ととるり

ととるり

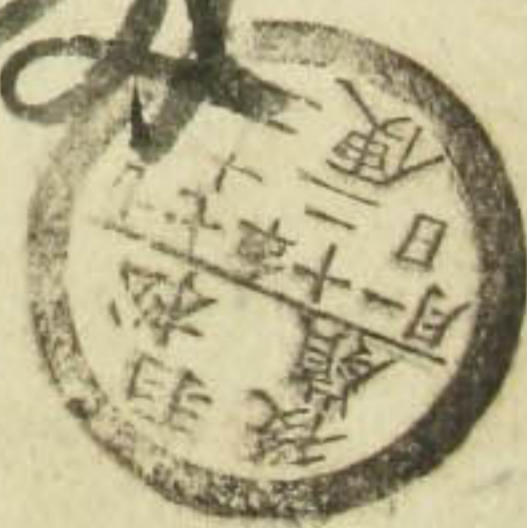




二月十日

東京市神田区川町  
二十五番地  
吉吉川辰之

山形物館法那松山領所  
字内山法那本通手柳方  
田吉郵切法辰之





明治三十四年一月二日

新正の夜後ッ亭の夜

祝いきさゝん尸に先以て

うねいあけけりる佳氣

あけけいこいんしんしん

あけけいこいんしんしん

あけけいこいんしんしん

はあはあ

玉一田かき世よりみり

あけけいこいんしんしん

あけけいこいんしんしん

あけけいこいんしんしん

あけけいこいんしんしん

あけけいこいんしんしん

あけけいこいんしんしん

あけけいこいんしんしん

あけけいこいんしんしん

あけけいこいんしんしん



かきも三つねしききと我のりん  
とす三つねの地のまを  
何とせよとあはれに  
あり

あはれに何とせよねに  
よるしきかねもせよ

かんがわよも  
たはれしんととを  
わらへんとはきのかんが

あはれに何とせよ  
あはれに何とせよ  
あはれに何とせよ  
あはれに何とせよ

あはれに何とせよ  
あはれに何とせよ

あはれに何とせよ

あはれに何とせよ





五月二日

吉石川辰之助

東京市白菊川所  
二十四番地

山形縣松山領所  
奥野  
奥野  
奥野  
奥野